



奉祝 明治天皇御親祭150年
未来につなげるまつりの心

氷川神社
社報 第四号

武蔵一宮

謹賀新年

平成三十年
皇紀二六七八年
つちのえいぬ
戊戌



年頭にあたり

平成三十年戊戌の年頭にあたり、謹んで聖寿の万歳と御皇室の弥栄、国家の隆昌をお祈り申し上げます。また今上陛下には、本年御在位三十年を迎えられます事に重ねてお慶び申し上げます。

さて昨年は今上陛下が譲位の御意向をお示しになられ皇室典範特例法が施行、神宮では池田厚子様に代わり黒田清子様が神宮祭主に御就任されるなど時代の継承を象徴する出来事がありました。当社では明治天皇が新時代の舵取りにあたりその御決意を氷川神社の御神前で御親祭を執り行い、お示しになられたより百五十年目の嘉節の年でございます。十月二十七日・二十八日の奉祝大祭はもとより各種奉祝行事も滞りなく盛大に斎行する事が出来ました。御協

力を頂きました氏子崇敬者の皆様には衷心より厚く御礼申し上げます。近代日本の幕開けである明治維新は、殊に当社にとっても明治元年に勅祭社、また明治四年に官幣大社に列せられ、更にその後の境内整備事業と社殿造営等、境内は一新されました。この事は、当社の二千五百年の歴史の中でも特筆すべき事でございます。御親祭百五十年祭に關しましては本年三月以降に記念碑建立、記念事業を施工予定でございます。御奉賛をお寄せ頂きました皆様には改めて御礼申し上げます。

本年も職員一同、浄き明き正しき直き誠心にて神明奉仕に励み、氷川の大神様の御神威が弥高く、御神徳が遍く皆々様の上に注がれますようお祈り申し上げます。



大干支絵馬(舞殿)



歳旦祭



大宮能楽研究会(一月三日)



大宮鷹職組合(一月一日)

明治天皇御親祭

百五十年大祭奉告祭

十月二十一日午前十時より明治天皇御親祭百五十年大祭奉告祭が朔瓶祭に併せ斎行されました。御親祭が近づき本殿や拝殿の調度品が新調、拝殿前には参列者用の大テントが張られるなど境内は奉祝大祭の準備が整って参りました。



明治天皇御親祭百五十年大祭

氏子崇敬者祭

十月二十七日午前十時より明

治天皇御親祭百五十年大祭氏子崇敬者祭が斎行されました。大野総代会長始め責任役員、氏子総代・敬神講社評議員の他、副総代・世話人、敬神婦人会、氏子青年会、献花会、八雲睦会他関係団体等約三百名の御参列を頂き約一時間半で終了致しました。祭典終了にあたり東角井権宮司が御礼の挨拶を行い、明治天皇が御親祭を行われた経緯や明治維新における御親祭の意義を述べました。続いて大野総代会長より挨拶があり、「御親祭が行われた当時の大宮宿には三百二十ほどの世帯しかなかったが、それから大宮が飛躍的に発展したのは御親祭が契機であり、今後益々発展するよう神社の事に御尽力頂きたい」と話されました。



浦安の舞

氏子崇敬者祭では祭典中、御本殿前の幣殿で浦安の舞が奉奏されました。浦安の舞は皇紀二千六百年を奉祝して昭和十五年（1940）に多忠朝宮内庁楽部楽長が作曲舞した舞です。歌詞は昭和天皇の御製「天地の神にぞいのる朝なぎの海のごとくに波たたぬ世を」です。浦安とは心安かれという意味で平和を祈る舞です。



明治天皇御親祭

百五十年大祭本祭

十月二十八日午前十時、明治天皇御親祭百五十年大祭本祭が斎行されました。埼玉県知事上田清司様、埼玉県神社庁庁長の三峯神社中山高嶺宮司、さいたま市長清水勇人様、賀茂御祖神社新木直人宮司始め県内外の宮司、立正佼成会庭野日鑽会長、解脫会岡野英祥法主、衆議院議員枝野幸男様、牧原秀樹様、村井秀樹様、参議院議員古川俊治様、今般奉祝行事を御奉仕頂いた会の御代表様、御奉賛を頂いた方の中から御招待した方々あわせ約四百名の参列のもと厳粛な祭典となりました。



祭典中の奏楽と舞楽、蘭陵王は宮内庁楽友会の皆様に御奉仕頂きました。明治初期の記録に例祭の折、勅使に随行する楽師が黄鐘調の曲を演奏した事から献撤饌、玉申奉奠時の奏楽は黄鐘調の海青楽、拾翠楽、西王楽となりました。



祭典終了後、清水園を会場として行われた直会では、御奉賛者を代表し吉敷町総代の内田聖様に感謝状を贈呈致しました。

祝辞を頂きました賀茂御祖神社新木宮司は、「明治天皇は東京奠都にあたり、まず賀茂御祖神社で奉告祭を行われた」と経緯を説明され、続いて熱田神宮小申和夫宮司は「祖父がかつて氷川神社に御奉仕したため御縁を感じる」と話されました。乾杯は中山庁長に御発声を頂き、賑やかに進み約二時間の祝宴となりました。



明治天皇御親祭

百五十年大祭後祭

十月二十九日午前九時明治天皇御親祭百五十年大祭後祭が斎行され、これより先の国の隆昌と氏子崇敬者の益々の繁栄を御祈念申し上げました。



御親祭百五十年奉祝行事

柳生心眼流兵法柳正館

奉納居合演武

十月一日午前十一時、柳生心眼流柳正館により居合演武の奉納がございました。酒井直館主始め十名にて素肌武術と甲冑術の演武がございました。



第二十八回観月雅楽演奏会

十月四日午後五時半、氷川雅楽会により観月雅楽演奏会が行われました。仲秋の名月に行われた本年は開会にあたり、君が代の斉唱を行い観賞に訪れた六百名を超える一般の皆様にも御斉唱頂きました。演奏会は左記の曲目で、約二時間で終了致しました。

記

- 一、人長舞 其駒
- 一、豊栄舞
- 一、浦安舞
- 一、五常楽
- 一、胡蝶
- 一、蘭陵王



大相撲手数入の儀

十月七日午前九時、横綱稀勢の里(田子ノ浦部屋)により手数入の儀が行われました。事務局の明治天皇御親祭奉祝会(八重垣会)の招待者、一般観覧者併せて約六百名の前で雲電型が披露されました。太刀持ちは松鳳山関(東前頭四枚目・二所ノ関部屋)、露払い



埼玉太極拳協会奉納演武

十月七日午後一時、埼玉太極拳協会により太極拳の奉演がございました。楼門内にて村上明夫会長始め三十二名により三十二式を、会場を神橋く三の鳥居間に移し約二百名により太極拳協会二十四式が奉納されました。



裏千家献茶式

十月十一日午前十時、裏千家淡交会埼玉県支部による献茶式が執り行われました。当社境内の御神水で湯を沸かし、家元御名代伊住公一朗宗匠の御奉仕にて神前に濃茶、薄茶が奉納されました。本年は御親祭奉祝記念として八雲神紋茶碗や、お茶を点てる際の御神水を入れる桶、宮司旧家の煤竹を用いた茶杓が作製され執り行われました。



除垢ささら獅子

十月十四日午前十一時、久喜市除垢獅子保存会の鈴木稔会長始め二十六名により獅子舞の演目、はしご掛りが奉納されました。獅子や笛方の他、花笠、天狗、高張提灯、万燈など賑やかな獅子舞で、楽器の名前から獅子舞の事を「ささら」というようになりました。



石見神楽

十月十四日午後六時、島根県浜田市市長浜社中により石見神楽

が奉納されました。演目は鈴神楽、四方祓、塵輪、恵比須、大蛇で、二時間で終了致しました。観覧者は約七百名でした。



塵輪



恵比須



大蛇

奥氷川神社獅子舞

十月十五日午後三時、奥多摩町に鎮座する奥氷川神社の小峰陽一総代会長始め五十四名の皆様に獅子舞の奉納を頂きました。行われた布団張りの演目は約一時間で終了致しました。奥氷川神社は第十二代景行天皇の御代の創建で、奥氷川神社誌に当社と所沢に鎮座する中氷川神社、奥氷川神社の三社を加えて「武蔵三社」として信仰されてきたと伝わる古社です。



稚児行列

十月二十一日午前十一時、明治天皇御親祭百五十年祭奉祝会により稚児行列が執り行われました。稚児装束に身を包んだ四歳から十歳の男の子、女の子計百八十二名が当社二ノ鳥居から拝殿まで参進致しました。行列を盛り上げるため、大門町と下町の山車が後に続きお囃子を奏でました。



大宮華道連盟献華式

十月二十一日午後一時半、大宮華道連盟の献華式が執り行われました。献華式では、神前に明治天皇御親祭ゆかりの八俣大蛇意匠の薄端一对に埼玉県活花連合会理事長杉田康氏、大宮華道連盟会長矢部清華氏が槓を活け、あらかじめ献華。更に献華

の儀では杉田氏が白菊を、大宮華道連盟副会長細田好草氏が黄菊を献華しました。廻廊展示は二十日から始まり大宮華道連盟に加盟の先生の二十杯と神社職員の内杯が展示されました。二十三日までの予定でしたが台風二十一号の影響により二十二日までとなりました。

細田好草(桂古流)
藤井理正(古流松藤会)
松野朱世(草月流)
清水理秀(古流松藤会)
斉藤樹葉(そうえい流)
脇門俊香(池坊)
水口秀香(草月流)
小澁恭園(池坊・明流)
新妻良華(小原流)
西島春深(春草流)
小泉秀光(龍生派)
桐生一光(正風流一光会)
見村理和(古流松藤会)
岩井蘭香(桂古流・桂流)
町田裕甫(嵯峨御流)
守屋一陽(遠州流)
小原理晴(古流かたばみ会)
坂元一千恵(青葉流・青葉古流)

杉山智遊(新桂古流いけ花)
加藤一紀(日本古流)



武蔵菊花会菊花展

十月二十七日より十一月十五日まで武蔵菊花会により第六十七回菊花展が開催されました。通年より多い五百四十六鉢の菊が楼門内外廻廊、舞殿、本殿西側に展示されました(関連十三ページ)。



おむらい流大成三丁目囃子連

十月二十九日午後一時半、おむらい流大成三丁目囃子連により神楽が奉納されました。大成町三丁目八雲自治会の矢島昭二会長始め二十五名にて巫女舞、住吉三神・寿三番叟、八雲神詠、神明種蒔の演目が行われました。「おむらい流」は浅草の東方の小村井村からきており、大成では江戸時代から行われていいます。明治三年の明治天皇の御親拝の折には奉迎のため行われており、毎年四月の鎮花祭の日に合わせてお囃子と里神楽を奉納頂いております(三日間の内一日)。



記念碑建立事業奉賛者御芳名 平成二十九年九月〜平成二十九年十一月

※申込順、敬称略、お名前等の誤りがございましたら御容赦願います。

奉賛金の受付を開始して以降、多くの御篤志を頂戴致しております。ここに皆様の御芳名を御紹介し感謝を申し上げます。

法人

- 百万円
 - 東光寺 住職 松本 誠諦
 - 株式会社丸和運輸機関
- 五十万円
 - 代表取締役社長 和佐見 勝
 - 菱屋会館株式会社
 - 代表取締役 栗原 國起
 - 大正製薬株式会社
 - 代表取締役社長 上原 茂
 - 北西酒造株式会社
 - 代表取締役社長 北西隆一郎
 - 新城鉄骨工業株式会社
 - 代表取締役 新城 一
 - 三十五万円
 - 株式会社清水園
 - 二十万円
 - 有限会社沖乃郷造園
 - 株式会社丸幸
 - 株式会社美多加堂
 - 十万円
 - 鈴木徽章工藝株式会社
 - 毎日興業株式会社
 - 医療法人中山クリニク
 - 株式会社TOCCHIとつち整骨院
- 十万円
 - 有限会社新井ビルディング
 - 株式会社リユーズ
 - 株式会社小今製作所
 - 大宮燕會
 - 有限会社馬橋紙店
 - 株式会社冠木商店
 - 埼玉県煎茶道連盟
 - 埼玉県茶道協会
 - 丸宮食品株式会社
 - 大宮武林会
 - 原口社会保険労務事務所
 - 水川だんご屋
 - 株式会社アスカクリエート
 - 有限会社坂仁
 - 株式会社牛島建築設計事務所
 - さいたま市大宮茶道連盟
- 五万円
 - 有限会社渡辺青果店
- 一万円
 - 桜木町二丁目第三区自治会

個人

- 百万円
 - 山口 克子
- 二十万円
 - 渋谷 昌信
 - 渋谷 舞
 - 高橋 喜種
- 十一万円
 - 加倉井矩美子
- 十万円
 - 加藤 半藏
 - 加藤 亜季
 - 西角井正彦
 - 茂木 芳英
 - 清水 伸洋
 - 黒須 正礼
 - 高橋 重種
 - 関根 正美
 - 新藤 伸夫
 - 新藤 光枝
 - 牧野 洋子
 - 野澤 広美
- 五万円
 - 瀬戸川睦人
 - 三田村清幸
 - 三田村香玉
 - 宮前 隆一
 - 井上 泰一
 - 草谷智意子
 - 大矢 幸造
 - 小林 君子
 - 大矢 茂
- 十万円
 - 牧島 憲一
 - 吉田 孝年
 - 山下 繁
 - 高橋 成典
 - 中森ふくよ
 - 宮崎 泰一
 - 牛島 勝必
 - 牛島 和子
 - 高橋 昌枝
 - 前田 直樹
 - 森 正夫
 - 柳澤 成好
 - 中山 桂司
 - 遠藤 修
 - 藤岡 秀邦
 - 田部井 正
 - 竹内 巧
 - 田部井 良
 - 田部井 功
 - 出石 研次
 - 岩井 竹松
 - 河野 雅宏
 - 新井 修陸
 - 大矢 幸子
- 五万円
 - 大矢 幸子
 - 新井 修陸
 - 河野 雅宏
 - 岩井 竹松
 - 出石 研次
 - 田部井 功
 - 田部井 良
 - 田部井 正
 - 竹内 巧
 - 遠藤 修
 - 藤岡 秀邦
 - 柳澤 成好
 - 中山 桂司
 - 馬田 茂喜
 - 恒吉 一宣
 - 恒吉 僚子
 - 我妻 敏裕
 - 井上 祥宏
 - 安部壽美子
 - 花俣 淳一

高橋 寛司	瀬下 町江	瀬下 秀一	北山 基樹	伊関 淳	生内 大樹	田中 宏卓	吉田 雅男	工藤 實弘	井上恵美子	新井のぶ子	福田 雅彦	瓜生田 純	田島 由香	田島 研一	濱野喜一郎	金澤 祐治	大館 鏡子	大館 次雄	大館 真由美	大館 隆英	五万円
桜木 陽子	伊東キミ子	正林 滋二	鈴木 淳隆	酒井 守敏	倉持 直弘	橋口 徳郎	森下 保枝	深澤 洋美	山口 朝香	小森谷 博	川副 実	新井 康雄	相澤勢津子	石井 宗恵	梅田 宗京	吉澤 貞治	安藤 徹	高瀬 光男	小林又次郎	清水 恵美	五万円
石川 智邦	武藤由美子	武藤 秀王	伊藤 美保	森 民子	市川清一郎	森 俊彦	澤本 幸子	小島 茂	出谷 満	宍戸真由美	宮嶋 信也	江原 昭良	池上 明彦	齋藤 智幸	大石 忠男	大石 秀夫	田島 秀夫	高橋 信和	山来 敬子	中込 緑	五万円
桜井 直子	西岡 義一	大村 勝彦	二万円	迎 正子	白子 直行	齋藤 良隆	草間 孝治	福島 孝	植原 勇造	石川 誠寿	塩野谷啓蔵	桐生 一美	菅原みのり	三万円	牛久保太平	柳井 健一	関根 正英	伊藤 康光	辻村 公雄	田藤 健作	五万円
依田 俊也	齋藤 操	登立八重子	石川 英司	荒井 正夫	新井 芳明	白坂 昌美	関根 茂	須崎 真	北村 義光	野澤 洋介	森山 浩二	辻田 充司	片石 修三	大澤和喜男	大場 信雄	細川 法臣	岩下 弘	吉澤理恵子	星野 好子	細淵晶記子	一万円
寺嶋 正明	田澤 梅子	小林 豊	上野 京子	加藤 隆一	星合 稔宜	柘植 航	山科 照之	田島マリ子	兼子 洋	佐久間貴子	佐久間久枝	佐久間 睦	兼子 安子	石井 理一	中西かつよ	山下 晃弘	小泉たき子	林 理平	野澤 勇也	依田美由起	一万円
		関口 純子		松村貴美子	松村 泰任	渡辺 未智	堀 富雄	金井 良晃	鈴木 浩司	大塚 弘文	渋谷 彰	浅子 廣子	浅野 拓	藤田 孝芳	安田 和夫	小川 静江	松田 充代	恵川亜希子	恵川 一成	柴岡加代子	一万円

社頭往来

抜穂神事併せ日月旗奉納奉告祭

十月九日午前十時抜穂神事が齋行されました。抜穂神事は当社における古の新嘗祭であり、旧暦八月十四日に執り行つておりましたが、太陽暦への変更時に十月九日と制定されました。特殊神饌として小さく丸めた団子を山盛りに、また刈り取った稲穂をお供えします。併せて敬神婦人会の森川しな子会長始め常任役員十四名、氏子青年会の細沼武彦会長始め会員三十二名参列の中、日月旗の奉納奉告祭が執り行われました。



日月旗奉納奉告祭

総代研修旅行

十月十八日より二十日まで二泊三日の行程で氏子総代会研修旅行を実施致しました。参加者は四十三名で、近江神宮、日吉大社、日牟禮八幡宮を正式参拝の他、多賀大社、明治天皇伏見桃山陵、都久夫須麻神社、御上神社を参拝、比叡山延暦寺に参詣しました。



近江神宮にて

朔瓶祭

十月二十一日午前十時より明治天皇御親祭百五十年大祭奉告祭に併せ朔瓶祭が執り行われました。朔瓶祭は古くは九月、十月、十一月の朔日(一日)毎に行つておりましたが現在は十月二十一日のみ行つております。特殊神饌として濁酒と調理した里芋、山東菜をお供えします。

戦艦武蔵顕彰祭

十月二十四日午後二時、戦艦武蔵顕彰祭が戦艦武蔵顕彰会副会長佐伯鋼兵氏を始め十八名参列のもと執り行われました。



七五三

七五三は古くからの風習である髪を伸ばし始める三歳の髪置（かみおき）、男子が初めて袴を着ける五歳の袴着（はかまぎ）、女兒が大人用の帯を締める七歳の帯解（おびとき）の年祝でこれまでの成長の感謝と今後の無事を祈願します。十一月の土日はもとより日柄の良い平日も大勢のお子様にお参りを頂きました。大神様の御加護を頂き、これより先の健やかな御成長を御祈念申し上げます。



敬神婦人会国旗小旗作り

十一月二十一日午前十時より敬神婦人会の会員七十四名により国旗の小旗作りが行われました。作成された二千本の小旗は一般財団法人日本文化興隆財団に送られ皇居での新年一般参賀等に活用されます。



新嘗祭並敬神講社大祭

十一月二十三日午前九時、新嘗祭並びに敬神講社大祭が大野講長はじめ氏子総代、講社理事、

一般講員約二百四十名の参列のもと厳粛に斎行されました。新嘗祭は古事記、日本書紀にも記述がある程古くからあるお祭りで五穀豊穡を感謝致します。宮中では天皇陛下自らその年の新穀を御神前にお供えされています。祭典中に大成三丁目神楽連の皆様が神楽の奏楽を頂いております。

新嘗祭は古事記、日本書紀にも記述がある程古くからあるお祭りで五穀豊穡を感謝致します。宮中では天皇陛下自らその年の新穀を御神前にお供えされています。祭典中に大成三丁目神楽連の皆様が神楽の奏楽を頂いております。



大麻頒布式

十二月四日午前十一時、社務所二階小ホールにて神宮大麻頒布式が執り行われました。

酒造組合祈願祭

十二月四日午前十一時、境内の松尾神社前にて酒造組合祈願祭が執り行われました。



大湯祭前齋

十一月三十日〜十二月九日まで午後八時より大湯祭前齋が齋行されました。大湯祭前齋の期間、巫女神楽殿前に篝火を灯します。この火にあたる
と無病息災、火防の御神徳にあらずかれると云われております。



境内社巡拜



篝火

大湯祭本祭

十二月十日午前八時大湯祭本祭が齋行されました。大湯祭は起源不詳ですが三百年以上前の社記に記載がある古いお祭り
で、十日の本祭にあわせて市がたつ為、十日市ともいいます。熊手商、参道の飲食の露店約千軒が軒を並べます。御米、御酒の他、百味膳、菱餅、海老、長芋、鮎串をお供えします。また宗像神社前では、大己貴命(大國様)と少彦名命(恵毘須様)の二福神御姿の御神札、木像と福熊手、また福種銭の授与を致しますので大國市とも言います。



献饌



境内社巡拜



百味膳

鮎串

福種銭とは古くから続く縁起担ぎでお賽銭(金額は決まっています)の一部分をお祓いした縁起の良いお金と替えて商売の元金とした信仰です。現在では商売をされていない方も繁栄を祈願して受けています。本年は日曜日であり好天に恵まれ約三十万人の人出で賑わいました。



手締めの様子



三福神札



福財布

福熊手



宗像神社

大湯祭後齋並誓詔祭 饗膳式

十二月十一日午前十時、大湯祭後齋にあわせ誓詔祭が齋行され、境内の摂末社巡拝後、勅使齋館で饗膳式が行われました。饗膳式は齋主以下祭員が座に着き、奉仕所役二名が順に御酒や大湯祭の神饌である百味膳、菱餅、鮎串を勧める解齋の儀式です。御酒を勧める際には受ける祭員と「幾久、幾久、幾久」と声を合せます。饗膳式の齋行により長い大湯祭が終了致します。



才払

十二月十五日午前十時半、献詠祭終了後本殿及び拝殿のすず払いが行われました。



菊花会表彰式

十二月十六日午後二時、呉竹荘にて武蔵菊花会の第六十七回菊花展の表彰式が行われました。本年度の氷川神社宮司賞(七点)品名・受賞者御芳名(敬称略)

- 南部の白宝・田島睦夫
- 国華金山・上野忠士
- 国華八〇天・石井登
- 富士の新雪・川鍋辰雄

- 天女の名所・鈴木旭
- 泉郷彩り・佐藤昭次
- 南陽白妙・茂呂尚佑



また本年度で五回目となりました当社が船名の由来となった横浜の日本郵船氷川丸での菊花展示も行われました。



書元会廻廊展示

十二月三十一日より一月五日

まで書元会による書道の廻廊展示が本年も行われました。小学三年生から中学三年生までの会員の作品で「おせち」、「かど松」、「大きな志」、「初日の出」、「桜草の里」、「冬の景色」、「新都心の空」が題となりました。



大破式 除夜祭

半年間の罪穢れを祓う大破式が十二月三十一日午後四時より続けて本殿にて除夜祭が齋行されました。



祭典予定

月次祭	二月 一日
節分祭	二月 三日
節分祭撒豆式	二月 三日
的神事	二月 七日
初午祭	二月 七日
檀原神宮遙拝式	二月 十一日
紀元祭	二月 十一日
献詠祭	二月 十五日
祈年祭	二月 十七日
月次祭	三月 一日
郷神楽	三月 十五日
献詠祭	三月 十五日
春季皇霊祭遙拝式	三月 二十一日
春分祭	三月 二十一日
月次祭	四月 一日
神武天皇祭遙拝式	四月 三日
鎮花祭	四月 五日
鎮花祭	四月 六日
鎮花祭(本祭)	四月 七日
七里敬神講社大祭	四月 七日
献詠祭	四月 十五日

祭典の御案内

・月次祭は月の始めにあたり、国家安泰、氏子崇敬者の繁栄を祈願するお祭りです。

・献詠祭は和歌の神様である須佐之男命に毎月十五日、献詠歌として八雲会会員の和歌を奏上するお祭りです。和歌の神様とは古事記において須佐之男命が稲田姫命に詠んだ歌
八雲たつ いづもやへがき つまごみに八重垣つくる そのやへがきを

が初見であることが由縁です。

・節分祭は、節分とは季節の変わり目をいいますが、この二月三日は旧暦の大晦日にあたるため、特に重視し除災招福と一年間の無病息災を祈るお祭りです。祭典中、舞殿より豆をまき、弓の弦を鳴らす鳴弦の儀を行い厄を祓います。また、十二時半、二時、三時には特別年男による撒豆式を行います。撒豆のお申し込みは一月十二日～三十日まで社務所迄お願い致します。



撒豆式



的神事

・的神事は鬼やらいのお祭りです。本殿祭後齋場にて奉射の儀を行います。特殊神饌として若

菜御飯をお供え致します。

・祈年祭は「としごいのまつり」ともいい、五穀豊穣と国家安泰を祈るお祭りです。「とし」は稲のことで、稲は天照大御神から授けられた食物のため特に神聖とされてきました。祈年祭は秋の新嘗祭同様重要なお祭りで、全国の神社で行われております。

・鎮花祭は無病息災、五穀豊穣を祈願するお祭りです。三日間とも祭典中、楼門内舞殿にて氏子崇敬者の童女による花しづめ舞が行われ、七日の大祭では、緑、紅、白の菱餅の上に桜花を乗せてお供えします。



鎮花祭

稻荷神社調度品奉納

境内社の稻荷神社に永田産業株式会社様より御簾等調度品の御奉納を頂きました。御篤志に厚く御礼申し上げますと共に今後益々の御社運御隆昌を御祈念申し上げます。



十月の奉納献葎

古流松藤会 岩波理豊
池坊 草谷智花
桂古流 小林華侑
古流松藤会 川嶋理智
草月流 冲山草俊
桂古流 高橋典花
草月流 竹下尚峰
正風流二光会 桐生一光
春草流 栗原春彩

十一月の奉納献葎

古流松藤会 岩波理豊
池坊 草谷智花
桂古流 小林華侑
桂古流 高橋典花
草月流 竹下尚峰
正風流二光会 桐生一光

十二月の奉納献葎

古流松藤会 岩波理豊
池坊 草谷智花
桂古流 小林華侑
古流松藤会 川嶋理智
草月流 冲山草俊
桂古流 高橋典花

正式参拝及び諸会議 (敬称略)

十月

- 一日 柳生心眼流兵法柳正館(奉祝)
- 三日 黒磯神社
- 七日 稀勢の里(奉祝)
- 七日 埼玉太極拳協会(奉祝)
- 九日 敬神婦人会氏子青年会日月旗奉納奉告祭
- 十一日 天台宗埼玉教区檀徒会・伝道師会
- 十四日 久喜市ササラ獅子(奉祝)
- 十四日 石見神楽(奉祝)
- 十五日 奥水川神社獅子舞(奉祝)
- 十七日 日本郵便御親祭百五十年記念切手奉納奉告
- 二十一日 大宮華道連盟(奉祝)
- 二十九日 おむらい流神楽(奉祝)
- 二十九日 水川古文化研究会

十二月

- 一日 交通対策会議
- 一日 ミス・インターナショナル
- 一日 不二サツシ株式会社
- 六日 新潟・群馬・栃木・埼玉四経済同友会交流会
- 八日 立正佼成会大宮教会
- 九日 大宮茶道連盟
- 十四日 武蔵コーポレーション代表取締役 大谷義武
- 二十七日 さいたま市シニアユニバーシティ東浦和校第二期校友会
- 十二月
- 二日 北澤楽天顕彰会
- 三日 さいたま商工会議所青年部さいたま婚活(一〇一七)
- 十六日 武蔵菊花会
- 十八日 水川丸船長 金谷範夫
- 十八日 責任役員会納会
- 二十一日 大宮アルデージャ代表取締役 森正志
- 二十三日 立正佼成会大宮教会
- 二十三日 五色百人一首大会

平成三十年の厄年表 (数え年)

	後 厄	本 厄	前 厄
男・女61歳の厄年	昭和32年生	昭和33年生	昭和34年生
男性の大厄42歳	昭和51年生	昭和52年生	昭和53年生
男性の25歳の厄年	平成5年生	平成6年生	平成7年生
女性の大厄33歳	昭和60年生	昭和61年生	昭和62年生
女性の小厄37歳	昭和56年生	昭和57年生	昭和58年生
女性の19歳の厄年	平成11年生	平成12年生	平成13年生

厄年とは人生の中で身体的、精神的、社会的に転機を迎える年齢であり、変調をきたしやすい年として慎むべき年の事です。平成三十年の厄年は左表を御覧下さい。

厄年

婚礼展示会のお知らせ

下記の日程で婚礼展示会を開催致します。是非、おそろいでお出かけください。心よりお待ちしております。

記

- 一、日時 平成30年1月28日(日)
13時～16時
- 一、会場 氷川神社 呉竹荘
- 一、予約 不要
- 一、会費 無料

第五号は四月十五日発行予定です。

御力守

此の度新たに心願成就の「御力守(ちからまもり)」を奉製致しました。桐箱にお入れしました御力守は、かつて神域にございました「おがたまの木」を内符として納められております。おがたまの木は「招霊(おぎたま)」から転化し、古くから神様の力の宿る神木とされています。御力守を身につけ、氷川の大神様のお導きを頂きますよう御案内申し上げます。授与は平成三十年一月二十日からを予定しており限定数量の奉製となっております。

埼玉県神社庁教化委員会主催教化事業

『神主さんと神社を学ぼう!』

- 一、日時 平成30年4月8日(日)
- 一、会場 当社境内

『氷川マルシェ』、『さんきゅう参道2018』4月7日、8日同時開催予定。雨天決行。
※詳細は埼玉県神社庁ホームページを御参照下さい。

神社庁URL

<http://www.saitama-jinjacho.or.jp/>



昨年の様子



御力守 初穂料 1500円

発行 平成30年1月15日

写真協力 中村写真館

さいたま市大宮区高鼻町1-407 電話 048-641-0137

発行所 氷川神社社務所

印刷所 株式会社 秀飯舎

<http://www.musashiichinomiyahikawa.or.jp/>